

《中間報告》

世界史叙述メディアの新地平 学習歴史漫画を超えて

草生 久嗣

本稿は現在計画中の研究プロジェクト「人文社会系研究分野における成果報告メディアの開発—歴史学と歴史マンガの比較考察から」の中間報告である。2019年度における資料状況を報告し、学習漫画世界の歴史シリーズおよび前近代西洋史マンガのタイトルの紹介したい。

学習マンガジャンルの隆盛は、文章でなくマンガであって「主食ではないおやつ（手塚治虫）」だから人気なのではなく、その叙述の平易さ、読者を意識した解説のすぐれた実践例と評価されたからでもある。大学教科書、ビジネス書、国内外の古典籍について漫画解説が企画出版され続けることはそれを物語る。

日本史および世界史の学習マンガ出版は、1960年代から大手出版数社によって取り組まれ、現在まで版を改めて複数シリーズを揃えるに至っている。各巻 A4 版ハードカバーで二百ページ規模、カラー刷りページも多用され、写真図版をそなえて、シリーズごとに十巻から二十巻におよぶ多巻で刊行される〔櫻井準也 2019〕。恐竜や昆虫などを解説する理科マンガと並んで、歴史部門の存在感は学習支援（子供向け）・教養解説（一般向け）マンガというジャンルの中でも突出しているといえる。

1. 学習マンガ日本の歴史シリーズ

ジャンルの筆頭立役者である『集英社 学習漫画日本の歴史』全 18 巻 1968 年（和歌森太郎考証・解説、カゴ直利・宮坂栄一画）は、その完成度において今なお評価が高い。もともと同社の活字による『少年少女日本歴史全集』の姉妹編で、理科学習漫画と同時企画された。マンガ本体に口絵、写真図版、図表を補い、コマ内外に背景説明やト書きを付すなど、学習歴史漫画の基本スタイルを確立した。

これに続く企画、小学館版『学習漫画少年少女日本の歴史』には監修者児玉幸多が添え書きよせている。そこで児玉が学習歴史マンガ出版に歴史叙述の新メディアと

なることを期していたこと表明している。

「歴史を漫画で説明しようというのはかなり冒険である。しかし、文字で読んでも、耳から聞いても、人それぞれに頭の中ではその光景を絵に描いているのである。それが子供たちの頭の中で全くの絵空事にならないように、今の歴史研究の段階では、このくらいのところまではマンガにすることができないのではないかという試みがこの企画である。...それぞれの専門研究家の指導によって一巻ごとの構成を決め、作図や文章表現も考慮しているので、誤った知識を得る恐れはないと思う。そして、多分、大人が読んでも、あるいは見ても、十分に楽しみながら日本歴史の学習ができるのではないかと考えている。...楽しみながら正確な知識が得られることを願う次第である。」

児玉は歴史叙述をマンガ表現ですべてを代替できるとは考えていない。文字・図版による解説を補い、また監修者によって内容をコントロールすることで、マンガを補い、マンガのメリットである楽しさを生かそうとした。ここには歴史叙述のためにマンガ表現を借りるという関係がある。この児玉の歴史叙述と学習歴史マンガ観は、その後の学習漫画日本史の諸シリーズにおいても受け継がれ、歴史学習漫画一般の基本スタイルとなって現在に至る。

2. 学習マンガ世界の歴史シリーズ

学習マンガの世界史版が、この日本史版の成功と受容を受けて、後追いで企画されてゆく（資料《学習マンガ日本の歴史シリーズ》参照）。〔中央コミック『世界の歴史』1984〕の手塚治虫監修・キャラクターデザイン、樺山紘一編集参与のものが嚆矢であったが、むしろ日本史の学習漫画と人気連動し、日本史企画をひき継いだ形の〔集英社版学習漫画『世界の歴史』1986〕の編集スタイルが後のスタイルを作り上げた。集英社版は監修者に西洋史家の木村尚三郎をおき、原作者と作画者の二人三脚で教科内容をマンガ化してゆく。ただし世界史スケールの大きさのため、後年、出版社によっては地域・時代・单元ごとに専門監修者が配置されるようになる。現在の〔小学館『世界の歴史』2018〕の全17巻シリーズは、採択の多い教科書『世界史B』の出版元である山川出版社が編集協力し、その『世界史B』教科書および副読本

としての『詳説世界史研究』執筆陣と重なる橋場弦以下、9名の現役の歴史研究者を監修として置いている。

学研NEW版もまた、フルカラー図版、人気画風の作画者に作画を依頼、教科書準拠、監修者のステータスを備えている。〔集英社漫画版世界の歴史 2009=2019〕は文庫版にもなっている（資料《学習マンガ世界の歴史シリーズ》参照）。

3. 歴史学習マンガ

しかしながら、商業マンガ一般と異なり、学習マンガの歴史物・伝記物が、マンガ作品としてマーケットで流通しているわけではない。学習マンガはしばしば書店の学習参考書棚、あるいは叢書・全集のコーナーにおかれ、売上や人気のレースで一般漫画と上位を競うことはほぼない。また作者の画風、物語の内容についてマス・メディアや専門学術界でも話題を喚起することも乏しかったように思われる。

マンガジャンルにおける歴史マンガの位置づけは、学習漫画の日本史においても同じであるが、日本史シリーズのほうの事情はやや明るい。近年までに教科書をわかりやすく学習するに教材として広く認知され、受験対策での意義が認められたためである。主人公が受験対策に日本史学習漫画を愛読する姿が『映画 ビリギャル』（監督 土井裕泰 2015、原作坪田信貴）において演出されるなどした。日本史企画は参加出版社数もおく、シリーズの再版や新発行のペースも世界史版に比べて早い。これは自国文化を取り上げるという強みもあるが、現役著名マンガ家たちが、個人で日本史（石ノ森章太郎『マンガ日本の歴史』や水木しげる『コミック昭和史』）や、日本古典についての執筆を手掛けるなど、学習に使えるマンガが充実を見せることも支えになってきたといえよう。学習マンガ日本史については、監修者や編者のコメント〔永田喜嗣 2017、鍋田吉郎 2017、小泉隆義 2017〕が発表されたり、専門分野（日本考古学）知見からの丁寧な批評がなされたが〔櫻井準也 2019〕、世界史企画においては見当たらない。

これは世界史分野がカバーすべき分野のスケールが大きすぎ、紙幅の都合からもマンガにふさわしく物語を切り出すことが困難ということが大きいと思われる。いきおい教科書の叙述を挿画でサポートする形にとどまっ

てしまい、教科書叙述をマンガの挿絵で後追いする形となりがちである。ドラマにしやすい物語断片については、ヨーロッパ中世を扱う巻では、どのシリーズも「カノッサの屈辱」の話題を選んで紙幅を割り、教権と皇帝権の確執をキャラクターを整えて描く。しかしその物語化が困難な叙述部分については、入れ代わり立ち代わり世界史重要人物が登場して、数コマ～数ページずつ活動して場面転換に至るといったパターンの繰り返しとなる。ここでは、オリジナル時代劇マンガであれば可能になっているキャラクターの内面性や世界観の確立がはたされない〔渡辺信一郎 2015〕。シナリオの工夫次第であるとしても、マンガで物語展開を行うには、世界史に与えられた紙幅が少なすぎるのも事実であろう。それに応えた形で『集英社学習まんが 中国の歴史』全 11 巻セット 2008年が世界史から切り出して出版されたのであろう。

しかしながら日本史・世界史いずれにしても、学習マンガはマンガ作品の発表の場というよりは、教科書や監修者、原作者のテキスト主体の歴史叙述に、作家がイメージを提供するにとどまる形になっているといえよう。それでも現在のマンガ表現の発展が、学習漫画にも及んだ結果生じた影響は小さくない。現在のマンガ表現に顕著な「キャラ」化の問題について学習漫画における人物描写において検証した伊藤遊〔2013〕によれば、「科学的事実を重視してきたはずの学習マンガが、...これまで参照にされてきた写真や肖像画を全く無視して、新たなヴィジュアルを創造していくというのは、学習マンガ史上における大きなパラダイム変換であるといえる」事態となっている。〔宮本大人 2003〕が提言し〔伊藤剛 2005〕によって展開されたキャラクターの「キャラ」化は、二次創作へのキャラクター運用を広げるなど漫画文化の拡大に貢献するものである。しかし歴史マンガにおける著名キャラクターの多くは、それ自体が研究成果による構築物として常に議論にさらされる対象である。人物や場面の印象を読者に刻印するような描写には、監修者レベルからの注意が必要であったろう。そのような作家の漫画演出が、読者を驚かせた例も海外で紹介されている。〔Stimson, posted on 2014-01-31 17:30 EST〕。取り上げるべき史実項目が多く、それぞれの物語が薄くなりがちな世界史の教科書叙述を原案にしている学習世界史マンガは、副教材としての地位を得つつも、いまな

お、マンガ作品としての表現個性の場とはなりえていないように思われる。

4. 歴史マンガの新地平

今世紀に入り、月刊のマンガ専門誌や文芸誌に連載（『アフタヌーン』誌や『ハルタ』誌、『新潮』誌）された青年マンガのタイトルに、歴史物が目立つようになった。それもとえ歴史好みで関心のある我が国の読者にも目新しい題材で、原作（シナリオや設定）やマンガの執筆に際しても調査や取材に負担が大きいためであろう外国史それも前近代西洋史を題材としている点で注目に値する。現状の文化誌情報のみならず、外国諸語とその出版についても目配りが必要となるからである。

代表する作品例を連載中のものを中心に列挙する。

- ・岩明均『ヒストリエ（Historie）』講談社（単行本既刊 11 巻：2003.1-）
- ・幸村誠『ヴィンランド・サガ（Vinland Saga）』講談社（既 22 巻：2005.4-）
- ・惣領冬実『チェーザレ 破壊の創造者』原基晶（監修）講談社（既 11 巻：2005-）
- ・ヤマザキマリ、とり・みき『プリニウス（Plinius）』新潮社（既 9 巻：2014.1-）
- ・大窪晶与『ヴラド・ドラクラ（Vlad Drăculea）』株式会社 KADOKAWA（既 3 巻：2020.2-）

マンガによる西洋史劇としては、すでに池田理代子による近世ヨーロッパ史劇、青池保子の西洋中世史劇、東洋史での横山光輝以降の史記・三国志演義物などがあり、硬派の時代劇として広く人気を得てきたことはよく知られる。こうした「大河ドラマ的」作品にくわえ、大小の時代劇もマンガで描かれている。ノスタルジックな舞台設定を西洋前近代に借り、時間旅行や魔法を使ういわば「歴史エスエフ」の作品群も含めると、西洋史マンガは多く発表されてきているといえる（資料《西洋前近代史（古代～近世）マンガ》参照）。そうしたなか前掲の諸作品が異なる点は以下にまとめられよう。

1) それらは、便宜的なフィクションを前提とした時代劇や歴史ドラマとしてではなく、史実や資料・史跡解釈についてまがりなりとも作家自身も行い、必要であれば専門知見も得たうえで、歴史叙述として描かれよう

としている点が注目に値する。実在する史資料や史跡のリアリティを意識し、娯楽性やフィクションの必要と認めつつも、当該の歴史や文化を知る人（現地の人）をネガティブに驚かすような間違いは意図して避けようとしている。これは作画家として資料担当や原作者に従うだけでなく、マンガ家として主体的に作画上の歴史性を意識している証拠であろう。

2) そのため史資料でカバーしきれない史実や同時代背景の仮説的再構築にも意識的であり、その際も考証家（専門家・研究者）との学術コミュニケーションも惜しんでいない〔幸村誠 2018〕。仮説的再構築を史資料から行うことでは目的を共有する歴史研究者たちも、彼らに対して単なる考証者としてではなく、その学術的な経験から歴史叙述家同士として向き合っているのである〔大谷哲 2015〕。萩尾望都は『王妃マルゴ』を、歴史家たちがあまりにも主人公をネガティブに描くことに異をとえなるべく、マンガによる歴史叙述を試みたという。これも学際的な営みの一つと言えよう〔萩尾 2015〕。

3) それでいて、マンガ作家の作家性が前面に出され、教養としての史実の紹介や、既存の歴史叙述の翻案にとどまらない物語作品となっていることも特筆できよう。一個のマンガ作品として「キャラクターの立った」主役を中心とし、それに史実をからめる歴史叙述につとめている。異能の人物事績や著名な大事件の展開のみで話が進められる歴史ドラマ・時代劇とはせず、同時代世界を再描写しようとする姿勢がみられる。惣領の描くチェーザレ・ボルジアも、幸村のクヌート、岩明のアレクサンドロス、大窪のヴラド、いずれも超越した主人公としての魅力を描きこまれているものの、その特殊な個性に依存した偉人伝としてではなく、ある時は残虐で不道德な個性と、その人格を包括する同時代の諸設定によって物語を進められている。わき役たちも決して主役の引き立て役ではなく、歴史の舞台にそれぞれが立ち位置を示す。

世界史の流れを遠景におき、近景でマンガ作者たちは歴史的な再構築を模索する。主役や取り上げる史実はいわゆる著名人ではなくともよく、世界史上でもあまり注目を集めてこなかったテーマや人物がとりあげられ、教科書では触れられることのない解説が付く。それは一概に非専門家による虚構、不確かなフィクションとは言い切れない知的態度があり、フィクションを加える匙加減

をとってみても、その手続きは学術的な歴史の再構築、歴史叙述と差はない〔幸村 2018 ほか〕。むしろ活字だけでは描き切れない空間描写や記号を説明しようとする点で、文化史叙述においては優れた成果を残しているともいえる。

4) またこれらは、中等教育の教室で習う世界史の教材には収まりにくい。特定の教科上の学習目的、あるいは政治や信仰のイデオロギーや、特定の歴史観に導く、訓導マンガでないことはもちろんのこと、偉人の事績、記憶すべき史実を教える意図が先行した物語ではない。また物語上、不法行為・性的暴力・残虐行為といった描写を避けたいためである。教室の教材とする前に読み手が受けるショックに配慮し十分な教材研究が欠かせない作品群でもある。

以上四点の特徴が示すところ、こうした作品群は、ここにはテキスト主体で構成されてきた歴史叙述に比すべきグラフィック・ノヴェルにとどまらないヴィジュアル・ヒストリーの在り方を指し示すもののように思われる。

5. 手塚治虫版『世界の歴史』とアンソロジー

新しい西洋史マンガと学習マンガの世界歴史を対比的にとりあげてきたが、そうした見方に立って改めてみると中公コミックス版（手塚治虫監修・キャラクターデザイン、樺山紘一編集参与）の異色さが際立ってくる。

手塚版世界の歴史は、構成上、マンガ本体に口絵や解説コラム（作成はフロッシュ）でマンガによる叙述の不足を補うという体裁である点で、先行する日本史学習漫画や後続の世界史マンガと同じである。しかしマンガ作家自身が監修と、各巻別作画担当とともにキャラクターデザインを担当し、一方西洋文化史の専門家の樺山紘一（西洋中世史家、現印刷博物館長）を編集参与とする布陣は珍しい。樺山は当時『現代思想』誌ほかで文化論客としても知られ、メディアを超えた活動を行っていた歴史研究者であった。

その体制で作成された手塚版の学習世界史は、いわゆる重要人物名や事件名、教科書の単元に則した用語群に、物語を誘導・束縛されることなく、無名の同時代の登場人物を多く起用して完全なフィクション・ドラマを演じさせる展開が目立つ。そのドラマへの導入までには、教科書的な時代背景説明がなされるが、手塚が目指したと

ころはむしろマンガによる物語であり、おそらくは各巻・各単元を担当したマンガ原作者や作家たちにストーリーは委ねられた。ここに手塚によるマンガによる歴史叙述を求めた姿を読み込むのは行き過ぎであろうか。今後の検討課題としたい。

なお、手塚が求めたであろうマンガ家自身の作家性に委ねた歴史叙述の試みとしては、蓄積がゆたかな日本史や中国古代史ではすでに業績がある。作家たちのオリジナル小編を時代・テーマごとのアンソロジーとしてまとめた企画〔中野晴行 編『漫画家たちが描いた日本の歴史』〕では、収められた小編はそれぞれフィクションの時代劇断片であるが、その連続通読によって同時代空間を読者に印象付けるのに成功している。同様のことは史記や三国志ほかのエピソードのマンガ化に取り組んだ横山光輝の諸著作ほか、読者層の厚い東洋史・中国古典のマンガ作品化にもあてはまるであろうことはよく知られる〔陳 曦 子 2012〕。近年までの作品で酒見賢一作、森秀樹作画、久保田千太郎脚本『墨攻』、原泰久『キングダム』、伊藤悠『シュトヘル』、瀬下猛『ハーン -草と鉄と羊-』などのタイトルがあげられよう。こうしたかたちで漫画を用いた歴史叙述の可能性はすでに模索されてきている。西洋史含む世界史マンガの存在は、我が国におけるマンガによる歴史叙述の醸成を示すメルクマルといえるかもしれない。

6. おわりに

マンガ表現の進歩は著しく、マンガを読みなれない読者は現在のマンガのコマ割りや欄外注釈、設定の世界観・登場人物描写の多彩さにすら戸惑うほどであろう。今なおマンガ企画を活字出版より下にみる風潮は残るものの、現状、メディアとしてのマンガは豊かな表現の可能性を持ち、適切な監修者・原作者・作画家、そして類する映像メディアとの連携によって、さまざまな表現を託し得るものといえる。

時代劇・エスエフ作品を超えた歴史マンガは、今後は、マンガという文芸メディアと史実考証のアカデミズムの間で、マンガ作家たちと専門歴史研究者の双方から歩み寄った新しい歴史叙述を可能にするように思われる。これをヴィジュアル・ヒストリーの試みとして、本研究では今後ともその両者の動向を注視してゆきたい。

資料

《学習マンガ日本の歴史シリーズ》

- ・『学習漫画 日本の歴史』集英社、全 18 巻、1967 年
- ・『小学館版学習まんが 少年少女日本の歴史』全 22 巻、1981 年
- ・『集英社版学習漫画 日本の歴史』全 18 巻 1982 年
- ・『学研まんが日本の歴史』全 16 巻 1982 年
- ・『まんが日本の歴史』大月書店 全 12 巻 1987 年
- ・『集英社版学習漫画 日本の歴史』全 22 巻 1998 年
- ・『小学館版学習まんが 少年少女日本の歴史』全 23 巻 2008 年
- ・『学研まんが NEW 日本の歴史』学研教育出版 全 12 巻 2012 年
- ・『小学館版学習まんが はじめての日本の歴史』小学館、全 15 巻
2015 年
- ・『角川まんが学習シリーズ 日本の歴史』KADOKAWA 全 15 巻
2015 年
- ・『集英社版学習まんが 日本の歴史』集英社 全 20 巻 2016 年
- ・『歴史漫画タイムワープシリーズ』朝日新聞出版、全 15 巻 2017 年

[櫻井準也 2019]による

《学習マンガ世界の歴史シリーズ》

- ・『中公コミックス 世界の歴史』中央公論社、全 15 巻 1984 年(手塚治虫監修、樺山紘一編集参与、いしはら俊・手塚プロダクションほか画)
- ・『集英社版学習漫画 世界の歴史』全 16 巻、1986 年(木村尚三郎監修、久松文雄・古城武司 画)
- ・『学研まんが 世界の歴史』学習研究社、全 15 巻、2003 年(長澤正俊監修、柳川正実指導、ムロタニツネ象画)
- ・『漫画版世界の歴史』集英社、全 20 巻、2009 年(=文庫版 全 10 巻 2019 年)(本村凌二・平勢隆郎 ・後藤明・河原温・鈴木恒之・斯波義信・近藤和彦・遠藤泰生・並木頼寿・石井規衛・柴宜弘・相良匡俊監修、茶留たかふみ他画)
- ・『学研まんが NEW 世界の歴史』学研プラス、全 12 巻、2016 年(近藤二郎監修、加藤広史他画)
- ・『小学館版学習漫画 世界の歴史』小学館、全 17 巻、2018 年(山川出版社 編集協力、橋場弦・南川高志・小松久男・青木康・小田中直樹・渡辺賢一郎・岸本美緒・池田嘉郎・木村靖二 監修、新井淳也他画)

《西洋前近代史(古代～近世)マンガ》

- ・青池保子史劇『アルカサル-王城-』、『修道士ファルコ』、『ケルン市警オド』(なお『エロイカより愛をこめて』にはトルコゲミレル島発掘調査団(浅野和生)発見の装飾モザイクが登場する。浅野和生『サンタクロースの島―地中海岸ビザンティン遺跡発掘記』東信堂 2006年を参照)
- ・池田理代子史劇(『ベルサイユのばら』(フランス革命)、『栄光のナポレオン-エロイカ(皇帝ナポレオン)』(近世フランス)、『女王エリザベス(宮本えりかと共著)』(近世イングランド)、『天の涯まで』(近世ポーランド)、『女帝エカテリーナ(アンリ・トロワイヤ原作)』(近世ロシア))
- ・磯見仁月『傾国の仕立て屋ローズ・ベルタン』(フランス革命)
- ・岩明均『ヘウレーカ』(西洋古代ギリシャ)
- ・犬童千絵『碧いホルスの瞳-男装の女王の物語』
- ・大西巷一『乙女戦争ディーヴチー・ヴァールカ』(フス戦争)
- ・大久保圭『アルテ』(ルネサンス絵画)
- ・カガノミハチ『アド・アストラ-スキピオとハンニバル』(ポエニ戦争)、
- ・菅野文『薔薇王の葬列』(シェイクスピア史劇)
- ・久慈光久『狼の口ヴォルフスムント』(中世傭兵)
- ・坂本眞一『イノサン』(フランス革命)
- ・篠原千絵『夢の雫・黄金の鳥籠』(ヒュッレム)、
『天は赤い河のほとり』(古代アナトリア)
- ・惣領冬実『マリーアントワネット』
- ・竹良実『辺獄のシュヴェスタ』(西欧修道院)
- ・萩尾望都『王妃マルゴ』(近世フランス)
- ・ハロルド作石『7人のシェイクスピア』
- ・日之本あかめ『エーゲ海を渡る花たち』
- ・古屋兎丸『インノサン少年十字軍』(中世十字軍)・真刈 信二原作
Double-S『イサック』(西欧近世30年戦争)
- ・山岸涼子『レベレーション』(ジャンヌダルク)
- ・技来静也『拳闘暗黒伝セスタス』・『拳奴死闘伝セスタス』(ローマ)

【文献目録】

- ・伊藤剛『テヅカ・イズ・デッド ひらかれたマンガ表現論へ』星海社 2014 (= NTT 出版 2005) 年
- ・伊藤遊「学習マンガ」キャラクター研究序説—教育・リアリティー— 『国際漫画研究3: 日韓漫画研究』京都精華大学国際漫画研究センター、2013 年、201-226 頁
- ・イトウユウ・山中千恵「政治—「伝記学習マンガ」を形作るもの」山田奨治編『マンガ・アニメで論文・レポートを書く「好き」を学問にする方法』ミネルヴァ書房 2017 年 85-108 頁
- ・岩明均『ヒストリエ (Historie)』講談社(既 11 巻:2003.1-)
- ・大窪晶与『ヴラド・ドラクラ (Vlad Drăculea)』株式会社 KADOKAWA(既 3 巻:2020.2-)
- ・大谷哲「「歴史」の眼で「見つける」こと—『ヘウレーカ』と『ヒストリエ』』『ユリイカ』2015 年 1 月臨時増刊号 特集*岩明均、青土社
- ・小泉隆義「マンガと時代考証—学習漫画を中心として—」大石学・時代考証学会編『時代劇メディアが語る歴史—表象とリアリズム—』岩田書院 2017 年 39-58 頁
- ・櫻井準也「学習漫画と考古学」尚美学園大学総合政策論集 28 (2019 年)1-36 頁
- ・『詳説世界史 B』『詳説世界史研究』木村・小松・岸本編 山川出版社 2017 年
- ・惣領冬実『チェーザレ 破壊の創造者』原基晶(監修)講談社(既 11 巻:2005-)
- ・陳曦子「日本における三国志マンガの翻案過程—その創作概況から作品分析まで—」『ビランジ』30 号(2012 年)4-24 頁
- ・永田喜嗣「学習まんがにおける十五年戦争～戦争加害の視角的表象～」『季刊 中帰連』62 号(2017 年)56-67 頁
- ・中野晴行 編『漫画家たちが描いた日本の歴史』全 6 巻 金の星社
- ・鍋田吉郎「(インタビュー:漫画原作者)集英社 90 周年記念企画『学習まんが日本の歴史』全 20 巻」『青春と読書』2017 年 8 月号、38-42 頁
- ・萩尾望都『私の少女マンガ講義』新潮社 2015 年
- ・宮本大人「漫画においてキャラクターが「立つ」とはどういうことか(特集:キャラクターを読む)」『日本児童文学』49(2)2003 年、46-52 頁
- ・ヤマザキマリ、とり・みき『プリニウス (Plinius)』新潮社(既 9 巻:2014.1-)
- ・幸村誠「(公開講演会)漫画でつなぐ、中世北欧と現代日本」『史苑』2018 年、43-62 頁

- ・幸村誠『ヴィンランド・サガ (Vinland Saga)』講談社(既 22 巻 : 2005.4-)
- ・渡辺賢一郎「少女マンガの表現技法と歴史叙述としてのマンガ」岡本充弘・鹿島徹・長谷川貴彦・渡辺賢一郎編『歴史を射つ一言語論的転回・文化史パブリックヒストリー・ナショナルヒストリー—』お茶の水書房 2015 年 316-337 頁
- ・Eric Stimson, "12 Things You Can Learn About World History From Manga, And More" posted on 2014-01-31 17:30 EST (Animenewsnetwork サイト内)

※本報告の作成には、大阪市立大学 2019 年度戦略的研究 STEP-UP(基盤 B)の研究助成を受けた。